

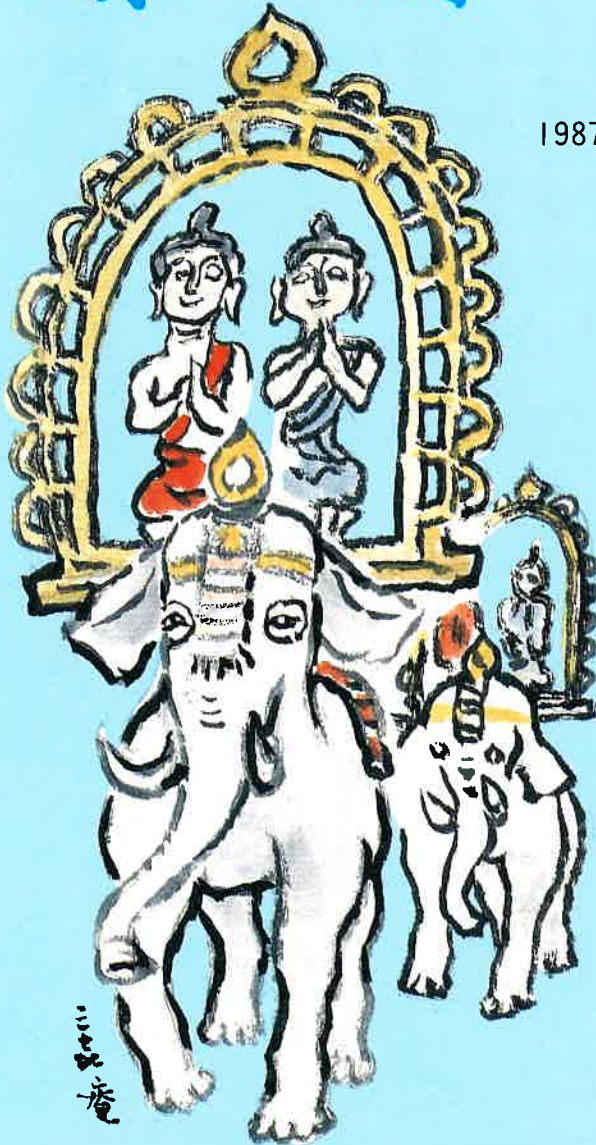
第 7 卷

# 成 者

SEIJU

夏 刊

1987



三三三  
庵

横浜 善光寺刊

拜啓向島の御念慮は情旨の故  
方甚なる極に及びます

“半寿”弟七号とお送りしなす

宗祖と通して釋尊に還る事か

念ふておます。その程にもよふ事

インド佛蹟参おとも考へて

今回はインド特集といた

日着の志を命はしなすかとも思ひ

インドに想ひを馳せしめ

時節柄の内もなす下にお送

たく又倍留は協力とおお申

敬具

六月吉日

兼定より信田大圓

(武志)

各位

阿羅漢ひじり

經かべき道を

過すぎおえ

うれいなく

一切すべてにおいて解脫げだつをえ

ありとあらゆる纏結まつわりを

断つちされる人に

熱惱くるしみあることなし

「法句經」

# 森 壽

SEIJU

1987 夏 季





宗祖を通して釈尊に還ることの重要性を、

今回のインド旅行で痛感しました。

各宗本山が殷盛いんせいを極めているのに反し、イ

ンド仏蹟は寂寥そのものでした。

これが今日の仏教の姿です。

宗派をこえて釈尊に帰一すべきであります。